

# 《総合科学部》人間文化学科国際文化コース

・ディプロマ・ポリシーに特に強く関連するものは◎、関連するものは○を記入する。

科目名	ディプロマ・ポリシー	【1. 知識・理解】		【2. 汎用的技能】		【3. 態度・志向性】	【4. 統合的な学習態度と創造的思考力】	科目の教育目標
		人文科学・社会科学・人間科学に関する幅広い知識を習得し、日本文化及び外国文化を深く理解し、地域社会及び国際社会で活躍できる。	(1)正しい日本語の運用能力、すなわち文章を論理的に書き、理解する能力、人とコミュニケーション能力を身につけている。	(2)外国語の基本的運用能力とそれに基づく国際感覚を身につけている。	豊かな人間性、高い倫理観を身につけ、自分で問題を発見し、解決する態度を身につけている。	総合的な視点と知識を身につけ、現代社会のさまざまな問題を分析する能力と技能、情熱的行動能力を有し、地域社会の文化や生活環境の創造に貢献できる。		
学術共通科目	日本語表現の基礎	◎	○	○	○	○	◎	現代日本語の構造を客観的に説明できる能力と、具体的な場面において適切に運用できる能力を身につける。
	文化研究の基礎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	分析の方法について学び実際の表現方法の諸相にも触れることによって、文化を研究するための基礎を築き上げる。
	哲学・思想の基礎	◎	○	○	○	○	◎	人文科学・哲学に関わる幅広い知識の理解。日本語で論理的な文章を書くことができる能力の養成。高い倫理観の涵養
	近現代世界の成立と展開	◎	◎	◎	◎	◎	◎	講義でとりあげる各国の近代化過程を比較的に、グローバルな視野をもって理解すること。
	心理学の基礎Ⅰ	◎	○	○	○	○	○	本講義では、心理学のさまざまな分野のうち、発達を心理学的観点から検討する。生涯発達を発給から死に至るまでと位置づけ、生涯にわたって発達し続ける人間について考えていくことを目的とする。
	心理学の基礎Ⅱ	◎	○	○	○	○	○	学問としての臨床心理学の視点から、「こころ」に対するアプローチの理解を目標とする。
	ヘルズプロモーションの基礎	◎	○	○	○	◎	○	1. 生活習慣病とは何かを理解する。 2. 生活習慣病予防のための運動の在り方を理解する。 3. 健康維持のための日常生活の在り方を理解する。
	健康体力科学の基礎	◎	○	○	○	◎	◎	現代社会の健康問題は、を正しく捉えるために、神経系、筋系、呼吸循環器系、代謝系、運動機能に関する基礎的な理解を踏まえ、日常生活における具体的な健康体力の諸問題の解決策を学習する。
コース専門コア科目	比較文化研究	◎	○	◎	◎	◎	◎	比較文化研究についての理解とその方法の習得。多文化社会と文化変容への理解を深めること。
	比較文化論	◎	○	◎	◎	◎	◎	国際的感覚を涵養し、総合的な文化研究を身につけること。
	地域交流史	◎	○	◎	○	○	◎	世界史を日本・アジア・ヨーロッパの各地域の交流を通じ、各地域の歴史が世界史を形成してゆく過程を理解し、将来歴史の教師となったときこのテーマを理解し、日本及び世界の未来について生徒に考えさせる実力の獲得を授業の到達目標とする。
	比較社会論	○	○	○	○	◎	◎	アメリカの家族および社会について社会的な分析視点を持ってもらうことを授業のテーマとする。
	世界経済論Ⅰ	○	○	○	○	◎	◎	国際的な経済関係は、その歴史的構造のもとさまざまな問題点を生み出し、その問題点の理解や問題点への対応を巡ってさまざまな議論を引き起こしてきた。講義では、この歴史構造と議論にかかわる基本的論点の整理を行う。
	国際関係論Ⅰ	○	○	○	○	○	○	①国際社会の性質、特徴を理解すること。②平和と戦争をめぐる現代の諸問題について、基本的な事実関係、実態を知ること。③国際政治と国際法の基本について、考え、方針、原則を把握すること。④冷静な現実主義と⑤高遠な理想主義の両方を兼ねた発想ができること。⑥外向きの広い視野を持つこと。
	実用外国語演習(英語)	○	○	◎	◎	○	○	全学共通教育や実用外国語基礎演習で培ってきた英語の能力を、より実用的なコミュニケーションの道具として使えるレベルに高め、現代の生きた英語によるコミュニケーション能力の向上を図ること。①わかりやすい/教員からのクラスにあっては、英語で文章を書いたりスピーチをしたりする能力をさらに高め、高度なレベルのプレゼンテーション能力を身につけることを目的とする。
	実用外国語演習(中国語)	◎	○	○	◎	○	○	中国語で作文および簡単な日常会話ができるようになること。
	異文化間コミュニケーション	◎	◎	◎	◎	○	○	(1)受講者自身が自らの文化に気づく。 (2)多様な価値観を認める心地的素地を形成する。 (3)異なる価値観を持った人々と実際にコミュニケーションしていくための具体的な方法を学ぶ。
	○	◎	◎	◎	◎	○	○	日本語学概論の音声・音韻・アクセントについての講義をする。日本語学各分野への興味づけを行うことを目的とする。音声学の研究成果を概観的に学習する。科学的視点での、もの、見方、とらえ方などを音声科学的諸事例を参照・検討することによって深める。
コース専門選択科目	日本語概説Ⅰ	○	◎	◎	◎	○	○	日本語学概論の音声・音韻・アクセントについての講義をする。日本語学各分野への興味づけを行うことを目的とする。音声学の研究成果を概観的に学習する。科学的視点での、もの、見方、とらえ方などを音声科学的諸事例を参照・検討することによって深める。
	日本語概説Ⅱ	◎	○	○	○	○	○	古代から近現代までの日本語にどのような変化が、なぜ起こったのかについて、基本的なことがらを理解し、言語変化を科学的に考える態度を養う。
	日本語研究Ⅰ	○	◎	◎	◎	○	○	日本語の敬語一般の基礎的な知識を身につけること。敬語や配慮表現について取り上げ、日本語の敬語について理解することを目指す。もの、見方、とらえ方などを日本語学上の諸事例を参照・検討することによって深める。
	日本語研究Ⅱ	◎	○	○	○	○	○	「方言」について正しい認識を持つ。また、言葉体系の中で考えることの必要を理解する。
	日本文学研究Ⅰ	◎	○	○	○	○	○	近代小説を出版させたといわれる『小説神髓』という本の中で、坪内逍遙は「小説の主眼は人情なり世風俗これに次ぐ」と述べています。小説の主目的は、人間の心のあり方や、社会・文化のあり方を描くことにあるということとです。このような課題は具体的な小説作品においてどのように実現されているのでしょうか。本講義では、明治時代の評論・小説作品を取り上げ、それぞれの作品がどのような形で人間の心や、社会・文化等を描いているのかについて考察することを目的とします。その上で、近代小説の特質について理解を深めることを目指します。
	日本文学研究Ⅱ	◎	◎	◎	◎	○	○	日本の古典(特に平安時代)文学研究の基礎のうち、作家論及び解釈方法について修得することを目的とする。テーマとしては、『紫式部日記』を取り上げ、文学史上の位置づけも講じる。
	日本文学講義Ⅰ	◎	◎	◎	◎	○	○	これからの人生を送っていくなかで、種々多様な文学作品に接することは、色々な面において有意義なものとなるはずである。しかし、日本古典文学を読むとすると、言葉が現代語と違ふのは勿論のこと、何かと取り付きにくいものである。そこで、日本古典文学史上の重要な作品の一つである『蜻蛉日記』をテーマとし、古典文学作品読解の基本を身につけることを目標とする。『蜻蛉日記』は日本文学史上重要な作品なので、日本文学も視野に入れた読解となる。
	日本文学講義Ⅱ	◎	○	○	○	◎	○	中世の古文理解と、読解のための歴史資料の扱いに慣れること。

コース専門選択科目	日本文学講義Ⅲ	◎	◎	○	○	文学作品には住空間や都市空間など様々な空間が描かれています。しかし、出来事の推移(ストーリー)を追いかける読解や、作中人物の心情を中心とした読解では、しばしば作品に描かれた空間の意味が見過されてしまう場合があります。本講義では作品空間に寄与するという観点から具体的な文学作品を読解することを通して、様々な空間のあり様とそこで生きる人間との関係について理解を深めることを目的とします。	
	日本語演習	○	◎	◎	○	日本の一地域においてフィールドワークを行い、調査によって得られたデータの処理の方法として、「方言データベース」「音声データベース」の構築方法について学ぶ。	
	日本語演習	◎	○	○	○	中世前期日本語の文献資料読解を通して、日本語研究の方法を身につける。自ら調査する過程に於いて、辞書、先行研究、その他参考文献等の適切な利用方法、探索方法を学ぶ。	
	日本文学演習	◎	◎	○	○	日本近代文学を研究する際の基本的な技術・姿勢を身につけることを目的とします。また、発表・討議を行うことにより、発表者は聴き手に対して分かりやすく(説明的に)伝える能力を養い、聴き手は発表者の報告を聞き取り、適切な質疑を投げかけることで議論を深める能力を養うことを目指します。	
	日本文学演習	◎	◎	◎	◎	日本文学の表現論のうちから、古代の引歌表現を取り上げて解釈力を養うこと。	
	日本史基礎研究Ⅰ	◎	○		○	古文書の読解「読み」(字の解読・訓点)と「理解」(意味・様式の把握)。	
	日本史基礎研究Ⅱ	◎		◎	○	日本近世の古文書史料を、読解し、分析する能力を習得すること。	
	日本史研究Ⅰ	◎	○	○	○	仏教を素材に、古代・中世における人々の考え方やその背景となる社会的土壌について、歴史的に考察できるようにすること。	
	日本史研究Ⅱ	◎	○	◎	○	日本の通史を理解する。	
	日本史演習	◎	◎	◎	○	日本古代・中世史を考える上で重要な論文あるいは史料を精読・検討し、そこにあらわれた諸問題に対する理解力と思考力を深める	
	日本史演習	◎	○	◎	○	日本近世史の史料や論文の内容を理解し、論評できる能力を身につけること。	
	東アジア文化論	◎		○		東アジア文化論では、文学作品を中心として、古代から近現代に至る中国の文化を様々なテーマから解明し理解していくことを主眼に於て講義を行っている。そうすることによって、中国文化の基層に流れているものを考えていきたい。	
	東アジア文化論講義Ⅰ	◎	○	◎	○	唐宋八大家文を読む。	
	東アジア文化論講義Ⅱ	◎	○	○	○	儒教の経典を講義し、古典漢文の読解力を高め、あわせて、「注釈にもとづいて本文の意味を確定する」という読解方法を習得する。	
	考古学基礎研究Ⅰ	○	○		◎	考古学の調査に取り組み際の基本的技術習得。	
	考古学基礎研究Ⅱ	○	○		◎	考古学の発掘調査法を学ぶ	
	考古学研究	◎	◎	◎	◎	考古学研究の方法論を学ぶ。講義・演習形式でおこなう。	
	考古学演習	◎	○	◎	○	日本考古学および関連する東アジア考古学を、フィールドを選びつつ、先行研究に学びながら実践する。先行研究や発掘調査報告書から研究資料を収集し、また必要な物は自ら実地調査する経験も積む。	
	アジア史基礎研究Ⅰ	◎			○	東アジアの歴史・社会に関する文献資料(主として漢文資料)の読解を通して、アジアの歴史や社会への理解を高めると共に、日本・東洋地域研究で卒業研究を行うべく、この講義を通じて必要な情報処理能力・語学力を養成することを目的とする。	
	アジア史基礎研究Ⅱ	○		○		中国社会について、現代中国語で書かれた文章を読む。中国社会への理解を深めるとともに、現代中国語の読解能力を向上させる。	
	アジア史研究Ⅰ	◎			○	先秦から唐宋に至る中国の前半期の歴史についての要点を理解し、中国の歴史や社会・文化の特徴について考える力を身につける	
	アジア史研究Ⅱ	◎				中国史の近世・近代にかけての基礎知識を学び、中国社会に対する理解を深める。	
	東アジア文化演習	◎	○		○	明清期の社会思想を題材に、中国思想を研究する上での手続き(一次資料の探索、先行研究の把握、分析枠組みの設定)を学習する。	
	東アジア文化演習	◎		◎	○	明代文言小説の講義(前期)／中国の語り物を読む(後期)。	
	東アジア文化演習	◎			◎	東アジアの歴史・社会に関する様々な情報をいかに入手し、これを利用して行くか、大学でアジア学を学ぶ上での基礎的手法とこれらを活用して行く研究手法と技能を身につける事を目的とする。	
	東アジア文化演習	○				中国は我々とは異なる社会である。彼らの差異と共通点は何か。他の文化圏と接触をする時にこのような視点は必須であると言える。この授業では、近現代中国に関する論文や調査資料を基にして中国社会への理解を深める。	
	東アジア文化演習	◎	○		◎	現代中国女性作家張愛玲のエッセイや小説を読解する。言葉の理解、分析が中心であるが、テキストの精読に当たってはその後援にあつた歴史、文化、社会状況を調べ、明らかにさせ、理解を深めていく。	
	英米言語研究Ⅰ	◎		◎	○	◎	英語の歴史ならびに現在、世界で使われている英語の諸相について理解を深める。
	英米言語研究Ⅱ	◎	○	○	◎	○	音声、統語分析、談話分析等、英語についての研究法を学ぶ。
	英米言語研究Ⅲ	◎	○		◎	○	日頃、無意識に使っている「ことば」を「認知言語学」という新たな視点から見直し、無意識の内に働いている「認知システム」を知ることが出来るようになる言語資料を、受講生自ら収集、分析できるようにすることを目標とする。
英米言語研究Ⅳ	○		◎	○		英語の統語分析の基本を理解すること。	
現代英語研究Ⅰ	○		◎	○		英語の分節音と超分節音に関わる特性を理解し、基本的聞き取りと発音ができること。	
現代英語研究Ⅱ	◎	◎	◎	◎	◎	This course introduces topics of general interest and gives students a chance to express their opinions orally and in writing. Formal and informal oral expression exercises are designed to make students comfortable speaking in front of a group.	
現代英語研究Ⅲ	○	◎	◎	◎		This course covers they ways in which a	

コース専門選択科目	現代英語研究Ⅳ	◎	◎	◎	◎	◎	This course introduces historical and contemporary features of foreign cultures so that students can compare and contrast foreign attitudes and Japanese attitudes. Students are encouraged to express their ideas in English orally and in writing. Formal and informal oral expression exercises are designed to make students comfortable speaking in front of a group
	英米言語演習	◎	○	○	◎	○	認知言語学の概要を理解して、その視点から言語を観察する力を養う。
	英米言語演習	◎	◎	◎	◎	◎	①【知識・理解】 a) Students will understand how to continue English studies throughout your professional career. b) Students will understand how to conduct action research.②【汎用的技能】 a) Students will be able to use general English and understand how to continue their pursuit of improving their academic English skills. b) Students will be able to express themselves concerning any issue from a pedagogical perspective. ③【態度・志向性】 a) Students will gain a better understanding of how to improve specific points of English language. b) Students will gain a better understanding of the field of education while being able to tackle problems in their classrooms. ④【統合的な学習経験と創造的思力】 Students will be confident and possess the skills scholar-practitioner of English education contributing to social change in their own classrooms.
	英米言語演習	◎	◎	◎	○	○	3rd Year Seminar This course gives an overview of topics related to second language acquisition, that is, the processes involved in learning a second language. This could concern English, but other languages can be considered too. Topics covered include learning strategies, listening skills, pronunciation, how languages are learnt and taught, differences between first and second language acquisition, pragmatics, and politeness. The course is conducted in English, but students can source references in Japanese and/or English. Most of the assessment in this class is on discussion rather than writing. 4th Year Seminar The whole year is spent writing the thesis. Therefore this course consists of both discussion and writing. We begin with the choice of a research question. The first semester is spent deciding on research methods and writing the Literature Review. Data is collected in the end of the first semester, or the beginning of the second semester. The second semester is spent writing up the Results, and writing the Discussion. Then the other elements of the thesis are completed separately, such as the Introduction, the Methodology section, the Conclusion, the References and the Appendices. Assessment consists of weekly presentations and written homework.
	英米文化研究Ⅰ	◎		○	○	○	英語詩を講読し、韻文で書かれたテキストの正確な読解・内容把握の訓練を行う。また、作品の時代や社会状況といったコンテクストについても考慮し、英語詩の評価・批評がおこなえる基礎を養成する。
	英米文化研究Ⅱ	◎	○	○	○	○	『ケンジントン公園のヒーローパン』などのファンタジー文学を読んだ際、ファンタジー的な作品の特質、歴史的、社会的、文化的な背景を理解し、作品の面白さを味わい、その意義を多面的に理解することが自分なりにできるようなことを目標とする。
	英米文学研究	◎		◎	○	○	英米文学の歴史的発展の過程を概観し、あわせてその時代背景、並びに文学事情を明らかにする。
	英米文学講読Ⅰ	◎	◎	◎	◎	◎	主として19世紀のイギリス小説を取り上げて精読しながら、作品自体が持つ様々な問題に対して多角的なアプローチを試みるばかりでなく、その作品の時代背景にも目を向け、当時の風俗や生活習慣、時代思潮など、広い視野からの理解を目指す。
	英米文学講読Ⅱ	◎	◎	◎	◎	◎	In this course, which will be held in English only, students will learn how to analyze written pieces and debate topics and themes found therein. Students will not only learn how to get a deeper understanding of literature beyond a story's plot but will also how to appreciate aspects of the craft of writing.
	英米文学演習	◎	◎	◎	◎	◎	This course will be held exclusively in English. The course will focus on the history and development of modern American fantastic literature. By reading, analyzing and debating influential and representative works of 'American Fantastic Literature', students should by the end of the course (a) have an understanding of the history and development of modern American fantastic literature, (b) be familiar with the most influential theories concerning 'Fantastic Literature'/'Fantasy', (c) be familiar with influential literary works and writers representing the genre.
	英米文学演習	○	○	○	○	○	英米の戯刺文学の中からいくつか代表的なものを取り上げ研究する。戯刺文学の持つ意味を自分なりに考察し理解することを目標とする。さらに、卒業研究に取り組む際の基礎的な研究態度を養う。
	英米文学演習	◎	◎	◎	◎	◎	Students in the International Culture Course develop English ability by focusing on topics related to intercultural communication and comparative culture. There may be individual or group work, depending on student taste and ability and students are active in organizing their study program. Students may also participate in practical projects designed to contribute to society in Japan and in other societies.
	英米文学演習	◎		◎	○	◎	この授業では、「研究の素材」となるもの自体について学ぶというよりは、「素材をどのように研究するか」について示唆を与えてくれる研究書や理論書、論文を日本語または英語で講読し、研究テーマの設定方法や研究方法について学ぶ。講読した研究書や論文中で提示されている研究方法や批評方法を十分に理解することを目標とする。

コース専門選択科目	英米文学演習	◎	○	◎	○	○	小説という言葉による芸術を通して、主に19世紀の、さらには時代を超えての、イギリスの世界を理解しつつ、普遍的な自分自身の存在の問題として、文学を味わい理解してゆきたい。さらに、卒業研究に取り組む際の基礎的な研究態度を養いたい。
	英米文学演習	◎	○	○	◎	◎	[3年次]映画を中心として、映像を用いた物語についての研究法を学ぶ。
	ヨーロッパ文学研究	◎	◎	○	◎	◎	ドイツ文学の傾向を知るとともに、少なくとも一つの作品を実際に読み、それについて考えたことを文章化する。
	ヨーロッパ文学演習	◎	○	◎	◎	○	ドイツの作曲家で、同時に作家でもあるリヒャルト・ワーグナー(1813-83)は後世に多大な影響を及ぼした。本授業科目はこのワーグナーの楽劇『ニーベルングの指環』四部作をドイツ語の原典で講読するとともに、ビデオを使ってオペラをも鑑賞することによって、教養を高め、豊かな人間性を培うことを目的とする。
	ヨーロッパ文学演習	◎	○	○	○	○	造形芸術と音楽や、それに従事する芸術家が文学作品の中でどう扱われているかを、主としてドイツ文学において考察する。
	ヨーロッパ文化研究	◎	◎	◎	○	◎	現代ドイツの社会についての概要とその多様性を知り、さらに関心を展開して行く程がかりを得る。同時に、自国の文化についての新たな観点を獲得する。(桂) フランス語で文学を読むためのフランス語能力と、文学作品を鑑賞し、理解し、論評するための語彙、方法を獲得する。(田島)
	ヨーロッパ文化演習	◎	○	◎	◎	○	欧米の社会と文化や歴史を、種々なレベルでとらえて研究する。宗教や哲学、法律や政治、経済、言語から文学、演劇、絵画、さらには映画や音楽などの現象まで、ヨーロッパやアメリカを特徴づける様々な事象を考察の対象とします。
	比較文化演習	◎	◎	○	◎	◎	比較文化研究についての理解とその方法の習得。多文化社会への理解を深めること。卒業研究の完成。
	比較文化演習	◎	○	○	○	◎	異文化理解によって、「自文化」をより深く理解できること。
	比較文化演習	◎	◎	◎	○	○	この授業は主として比較文化研究で卒業研究を進めていくことを考えている学生を対象とする。従来の専門分野にとらわれず、学際的・総合的な文化研究を目指して、比較文化の研究方法を学び、学生各人が個々の問題意識から主体的にテーマを見つけ、追究していく態度を養うことが、授業の目的である。各人のテーマに関しては徹底的に研究し、かつそれを比較という観点から相対化して検証していくということで、より普遍的な文化現象に迫っていく方法を身につける。また、卒業論文の指導もあわせて行う。
	比較文化演習	◎	◎	◎	◎	◎	西洋・日本・イスラームにおける価値観・人権概念の比較分析、現代国際社会における多様な民主化理論や文化衝突、平和の構築といった課題の重要性と戦争と平和の関係について、基本的に英語を用いて研究活動を行っていきます。
	ヨーロッパ思想研究	◎	◎	◎	◎	○	人文科学(西洋思想)に関わる幅広い知識の理解を目標とする。日本語で論理的な文章を書くことができる能力の養成を目標とする。高い倫理観の涵養を目標とする。
	ヨーロッパ思想演習	◎	◎	○	○	○	文献講読を通じて哲学・倫理学の知識を学ぶとともに卒業論文の執筆・発表に向けて論文技法(注釈や引用の適切な表記方法など)の習得とプレゼンテーション能力の向上を目指す。
	ヨーロッパ思想演習	◎	◎	◎	◎	○	ヨーロッパ思想に関わる知識を身につけ、論理的な思考や論理的な文章を書く能力の養成を目標とする。
	ヨーロッパ思想演習	○	◎	◎	◎	◎	日本語で論理的な文章を書くことができる能力を身につける。日本語の論理的な文章を理解する能力を身につける。
	ヨーロッパ史研究Ⅰ	◎	○	○	○	○	イギリスの近代史を、いわゆるグローバル・ヒストリに位置づけて論じる。イギリスの歴史は、一時期を除いて第二次世界大戦以降植民地を喪失するまで、帝国の歴史である。この過程は、現代のグローバル化社会の出発点ともいえる。現在に至るまで世界の様々な地域に影響を及ぼし続けている。イギリス国内のことから理解する上でも、このような観点は欠かせない。たとえば、イングラント人、スコットランド人、ウェールズ人がそれぞれの文化的差異を含みながらも、イギリス人というアイデンティティ(プリティンシユネス)へと統合されてきたのは、帝国の存在があったためである。
	ヨーロッパ史研究Ⅱ	◎	○	○	○	○	地理的に見てヨーロッパの中央に位置するフランスは「大陸国家」のイメージが強いが、近年では「海洋国家」の側面が見直されつつある。そうした研究をリードしているのが、カバントウ、ブー、ル・フエデクなどである。この講義では、16〜19世紀のフランスを対象に、まずはこの講義の進捗や植民地の獲得など対外関係の状況を概観するが、それと並行して、それを支えた仕組み、より具体的には、主に沿岸島嶼部に生きている「海民=海を糧とする人びと」に着目し、彼らが用いた船、港湾施設、商業、漁業の活動などを海事史の観点から検討し、海民の「マンタリテ」の解明に迫りたい。
	ヨーロッパ史研究Ⅲ	◎	○	○	○	○	現代史上のいくつかの重要な事象や問題について、歴史的な背景をもつて多角的に捉えられること。そして、自分が理解したことについて、明快で論理的な文章によって表現できること。
	アメリカ史研究	◎	○	○	○	○	「自由」「平等」といった合衆国の建国の理念が「人種」といった要因によって歪曲されてきた合衆国の歴史を踏まえ、現代における人種問題の諸相について理解を深める。
	欧米歴史・社会演習	○	◎	◎	◎	○	卒業研究を完成させるに足る知識と技法を獲得すること。
	欧米歴史・社会演習	◎	◎	◎	◎	○	主にヨーロッパ近現代史、現代ヨーロッパの社会問題について専門的に勉強していくこととする学生諸君が、自分自身の専門研究をスタートするために必要な方法と基礎を習得すること。
	欧米歴史・社会演習	○	◎	◎	◎	○	本演習では、問題発見能力および問題解析能力の養成を目的として各受講者が卒業研究の方法を習得するとともに、各受講者の研究発表と発表に対する質疑応答および討論を行うことで、受講生全員が卒業研究にまともなレベルで取り組むための必要と批判的思考力を養成することを目的とする。
	欧米歴史・社会演習	◎	◎	◎	◎	○	フランス史、文化史、西洋美術史に関する専門的知識の修得、文献読解、プレゼンテーション、論理的な文章の作成能力を身につける。
日本語教育方法論Ⅰ	◎	◎	◎	◎	◎	外国語としての日本語教育にとどまらず、広く教育についての概念を確認する。人とのコミュニケーションを通して自分との対話そして人との対話さらに自分を取りまく社会や自然とのかかわりを探求する。	
日本語教育方法論Ⅱ	◎	◎	◎	◎	◎	外国語としての日本語教育/学習を考える。言語を学び習得するとは何か、社会の中で言語の役割を知る。	
日本語教授法Ⅰ	◎	◎	◎	◎	◎	外国語教育としての日本語教育とは何かを追究する。その中で、日本語を教えるための知識、方法、及び技術を修得することを目的とする。日本語を教えるための方法を問われる者全ての視点から理解する。	

コース専門選択科目	日本語教授法Ⅱ	◎	○	◎	○	○	外国語としての日本語教育の全体像をとらえ、いろいろな教授法を検討し、現時点での効果的な教授法を考察する。またそれに伴い日本語教育のコースデザイン、カリキュラムデザイン、クラス運営について学ぶ。	
	日本語教材研究	◎	○	○	○	○	日本語教育機関での授業見学と教育実習を通して、日本語教育の具体的な方法を身につける。日本語教育機関での現場体験を通じて、日本語教育の教材、教案作成及び実践について理解を深める。	
	書道	◎				○	書写・書道の基礎的な技法と知識、さらにその指導方を習得する。	
	芸術文化論	◎	○	◎	○		古代から現代までの様々な音律について、その歴史の変遷を学ぶ。また、音が調和した美しさ、どのような教の秩序によってもたらされているかを学ぶ。	
	音楽学	◎	○	○		○	「交響曲」という、クラシック音楽の中でもっとも重要であり、しかし実態が極めて曖昧な形式について、歴史的そして音楽的な理解を深める。	
	デスクトップミュージック	◎				○	◎	各種シンセサイザーの構造と音作りの方式を理解し、それらの音色を的確に使いこなすことができる。また、音楽制作のためのテクノロジーを十分に理解する。
	現代音楽芸術論	◎	○	◎		○		20世紀の芸術音楽の流れを音楽史全体の流れの中で位置づけられる。また、その美しさを体得できる。
	日本経済論		○			○	○	戦後日本経済の推移を面ごとに考察し、その構造と特質を明らかにする。
	地域経済論		○			○	○	地域社会の土台をなす地域経済の構成と動態を検討するとともに、地域問題解決のための理論と手法を獲得することを課題とする。
	地域文化論Ⅰ				◎	◎	◎	世界の諸民族の事例を通して人間の文化・社会の多様性と普遍性について考察し、異文化および自文化の構造や意味を客観的に理解するための視点を修得する。
	地域文化論Ⅱ				◎	◎	◎	過去の、あるいは現代の日本社会における民俗文化の構造・機能・意味について深い考察を加える能力を習得する。
	社会変動論		◎			○	◎	自分で選択したテーマについて、文献を読んでデータを集め、レポートを書くようにする。
	社会心理学		○				○	人間の社会的行動に関する一般的知見とその近年の展開について理解する。